

## 巻 頭 言

2024年度公立大学協会図書館協議会（以下、「公大図協」と略します。）会長館として、会員加盟館の皆様にも多大な御協力をいただきましたことに対し、深く御礼を申し上げます。

今年度も、総会及び拡大役員会の全てがオンライン開催となりました。各地区代表協議会や諸委員会についても、その多くがオンライン会議や電子メールによる書面審議で開催されておりますが、コロナ禍以前のような対面開催も少しずつ増えております。対面開催では直接顔を合わせて人間関係を深められる一方、オンライン開催は地方の中小規模の大学にとっては少ない負担で議論や運営に参加できるといった利点もあり、今後はそれぞれの利点のバランスなども踏まえながら、開催にあたっての選択肢とされていくものと考えております。

また、今年度は東北農林専門職大学が公大図協に入会され、加盟会員館が98校となりました。近年の設置者である地方公共団体の財政状況や学術図書をはじめとする諸物価の高騰、さらには各大学における職員体制など、公立大学図書館を取り巻く状況が難しさを増している中で、新たな会員館を迎えられたことは大変心強く喜ばしいものと感じております。

今年度は、前会長の御尽力で見直しを実現した「公立大学図書館（加盟館）概要」と会員名簿、加盟館一覧について、見直し後として初の調査を実施しました。さらに、公大図協の名称を令和7年度から「公立大学図書館協会」とする変更を総会で決議いただき、それに伴う会則や規程類の見直しを行いました。こうした公大図協の運営に関する協議・検討について、役員館をはじめ拡大役員会の皆様にも様々な御協力を賜りました。また、「公立大学図書館（加盟館）概要」と名称変更準備などについて、ホームページ掲載内容の変更にお骨折りいただいたホームページ委員会の皆様、各地区代表協議会の運営にあたっていただいた各地区代表校の皆様、関係委員会委員を御担当いただいた皆様にも多大な御助力をいただきました。そのほかの会員館の皆様にも貴重な御意見や励ましをいただきました。お陰をもちまして、この1年間、大過なく公大図協の運営を行うことができましたことに改めて御礼を申し上げます。

今後は、「公立大学図書館協会」という新たな名称のもと、会員加盟館相互の情報共有や協力体制の充実に努め、組織の存在意義を一層高めながら、活動を進めていけますよう願っております。加盟館の皆様におかれましては、引き続き公立大学図書館協会の運営に御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月

公立大学協会図書館協議会

会長（福島県立医科大学附属学術情報センター長）

松岡 有樹